

# 2023年3月期 決算説明



関西フードマーケット

## (2023年3月期振返り)

- ▶ チェーンオペレーション再構築による生産性向上の取組みを推進  
原材料費、光熱費、物流費の高騰など外部環境の変化が大きく、営業利益は予想を下回る
- ▶ イズミヤ、阪急オアシスのチェーンオペレーション改革は、  
業務の標準化・効率化が進み、人件費削減など30億円の利益押上げ
- ▶ 関西スーパーは集客施策による売上伸長とコストコントロールの両立により、  
売上・営業利益ともに予想を超過

## (2024年3月期見通し)

- ▶ 光熱費や人件費などコスト増加は継続するものの、連結で増収増益を見込む
- ▶ イズミヤ・阪急オアシスは上期の売上回復とオペレーション改善効果により、  
増収増益を見込む
- ▶ 関西スーパーは前年の集客施策とコストコントロールの精度をさらに高め、  
増収増益を見込む

I . 2023年3月期 実績

II . 2024年3月期 通期見通し

# I - 1. 連結業績

- ▶ 売上は予想並みも、粗利益減少により営業利益は予想を下回る
- ▶ 当期純利益はイズミヤの税効果見直しにより、予想を大きく上回る

(単位：億円)	金額	対予想
総額売上高	3,886	99.6%
売上高	3,740	99.7%
営業利益	59	▲6
経常利益	54	▲5
特別利益 特別損失	1 26	
親会社株主に 帰属する当期純利益	43	+20

# I - 2. 会社別業績



関西フードマーケット

- ▶ イズミヤ、阪急オアシスは、1・2Qは前年のコロナ特需の反動の影響が強く苦戦  
3・4Qは前年並みに回復し、チェーンオペレーション改革による生産性向上で増益
- ▶ 関西スーパーはコスト増や物価上昇などの外部環境の変化に対し、  
集客施策による売上伸長とコストコントロールを両立させ、売上・営業利益ともに予想を超過

(単位：億円)	1・2Q		3・4Q		通期			
	金額	対前年	金額	対前年	金額	対前年	対予想	
イズミヤ、 阪急オアシス	総額売上高	1,282	95.5%	1,308	99.3%	2,590	97.4%	99.1%
	販管費	395	▲5	390	▲8	784	▲13	—
	営業利益	9	▲18	24	+5	33	▲13	▲6
関西スーパー ※1	総額売上高	639	96.6%	657	101.5%	1,296	99.0%	100.7%
	販管費	167	▲4	158	▲11	325	▲14	—
	営業利益	11	▲2	18	+6	29	+4	+1

※1 関西スーパーマーケットとKSPの連結数値  
注. 個別業績は収益認識基準適用前 総額売上高はその他営業収入を含む

# I - 3. 食品事業—既存店売上の状況

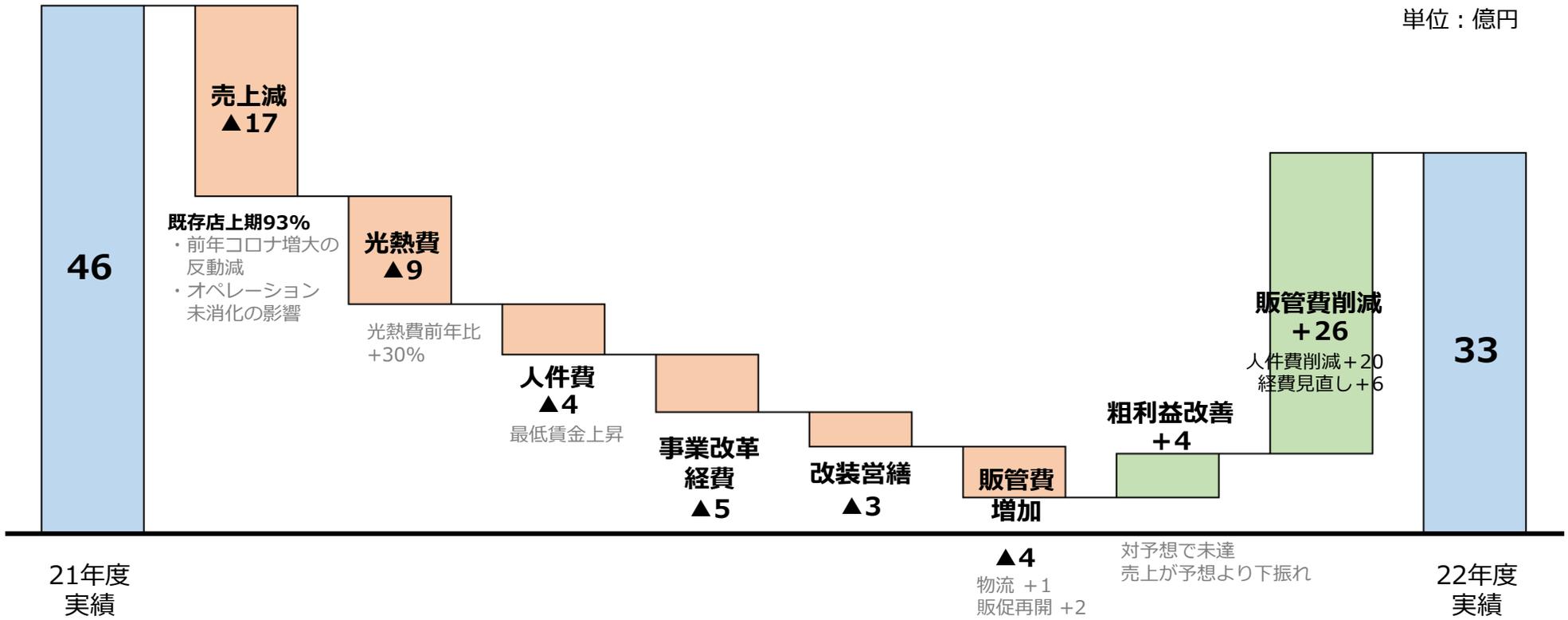


- ▶ 1Q・2Qは前年のコロナ感染拡大による内食需要の高まりが特に関西地域において強く、その反動で既存店が苦戦、3Q以降前年並みに趨勢は回復
- ▶ 新型コロナウイルスの影響緩和と物価上昇に伴う生活防衛意識の高まりにより客数が減少、値上げによる単価上昇の傾向が続く

	1・2Q	3・4Q	通期		
	既存店 売上高	既存店 売上高	既存店 売上高	客数	単価
イズミヤ	94.9%	99.5%	97.1%	96.0%	101.1%
阪急オアシス	91.0%	97.8%	94.3%	95.1%	99.1%
関西スーパー	96.5%	101.5%	99.0%	98.3%	100.7%
3社合計	94.3%	99.6%	96.9%	96.6%	100.3%

# I - 4 . イズミヤ、阪急オアシス22年度通期利益増減要因

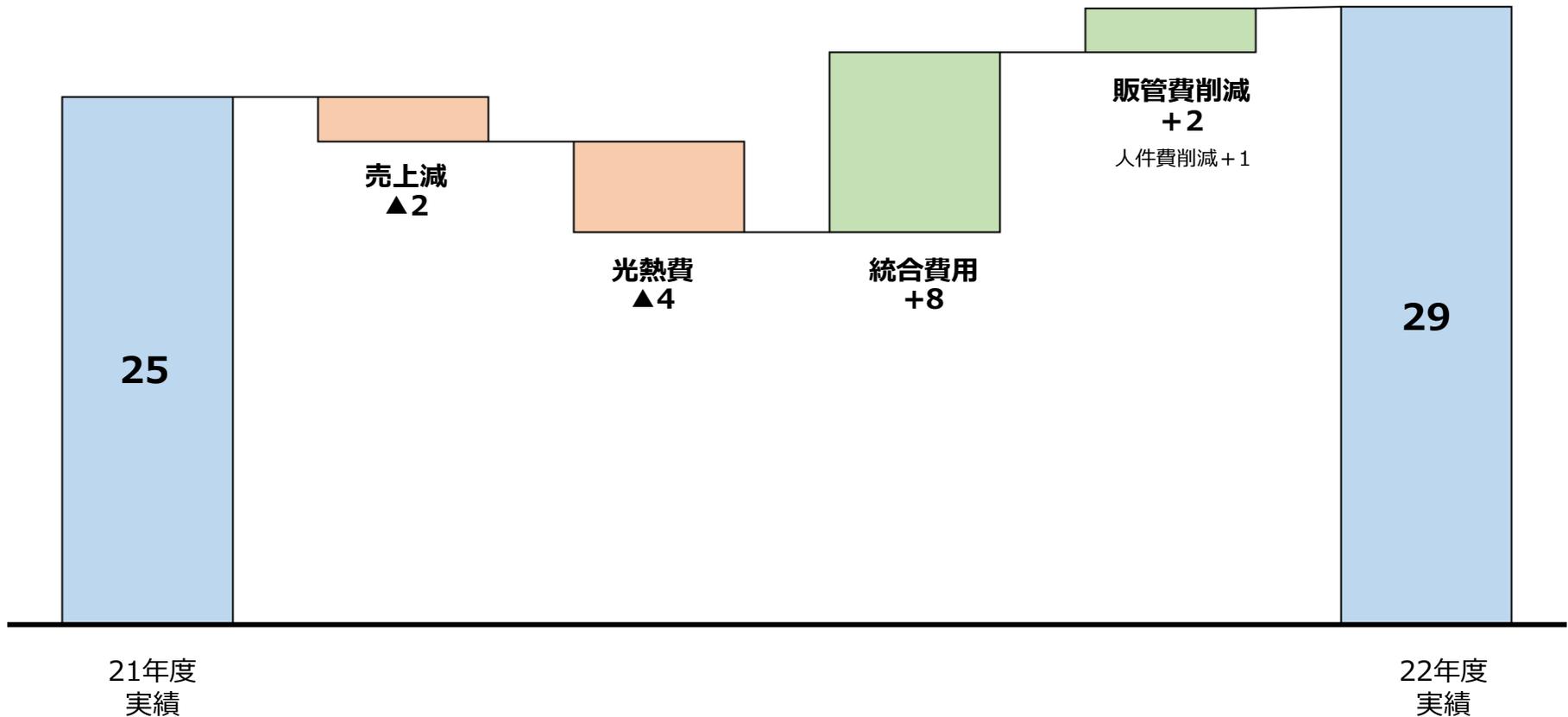
- ▶ チェーンオペレーション改革により、業務の標準化・効率化が進み、人件費削減などで30億の利益押上げ
- ▶ 光熱費、最低賃金上昇による人件費のコスト増に加え、前年反動やオペレーション未消化による上期売上苦戦で粗利益減



# I - 4 . 関西スーパーマーケット22年度通期利益増減要因

▶ 売上減による粗利益減少は販管費削減でカバー、営業利益は予想を上回る

単位：億円



## Ⅱ - 1. 2024年3月期通期見通し



関西フードマーケット

- ▶ 売上は既存店ベースで伸長、粗利益増加とオペレーション改善効果により営業利益は増益を見込む
- ▶ 当期純利益は、営業利益伸長により増益の見通し

(単位：億円)	1・2Q		3・4Q		通期	
	金額	対前年	金額	対前年	金額	対前年
総額売上高	1,986	103.4%	1,974	100.4%	3,960	101.9%
売上高	1,900	102.7%	1,890	100.0%	3,790	101.3%
営業利益	48	+30	39	▲2	87	+28
経常利益	46	+30	36	▲3	82	+28
親会社株主に 帰属する当期純利益	28	+21	17	▲18	45	+2

## Ⅱ - 2. 会社別見通し



関西フードマーケット

- ▶ イズミヤ・阪急オアシスは上期の売上伸長、チェーンOP強化により増収増益を見込む
- ▶ 関西スーパーは売上増による粗利益増加と、コスト抑制を進め増収増益を見込む

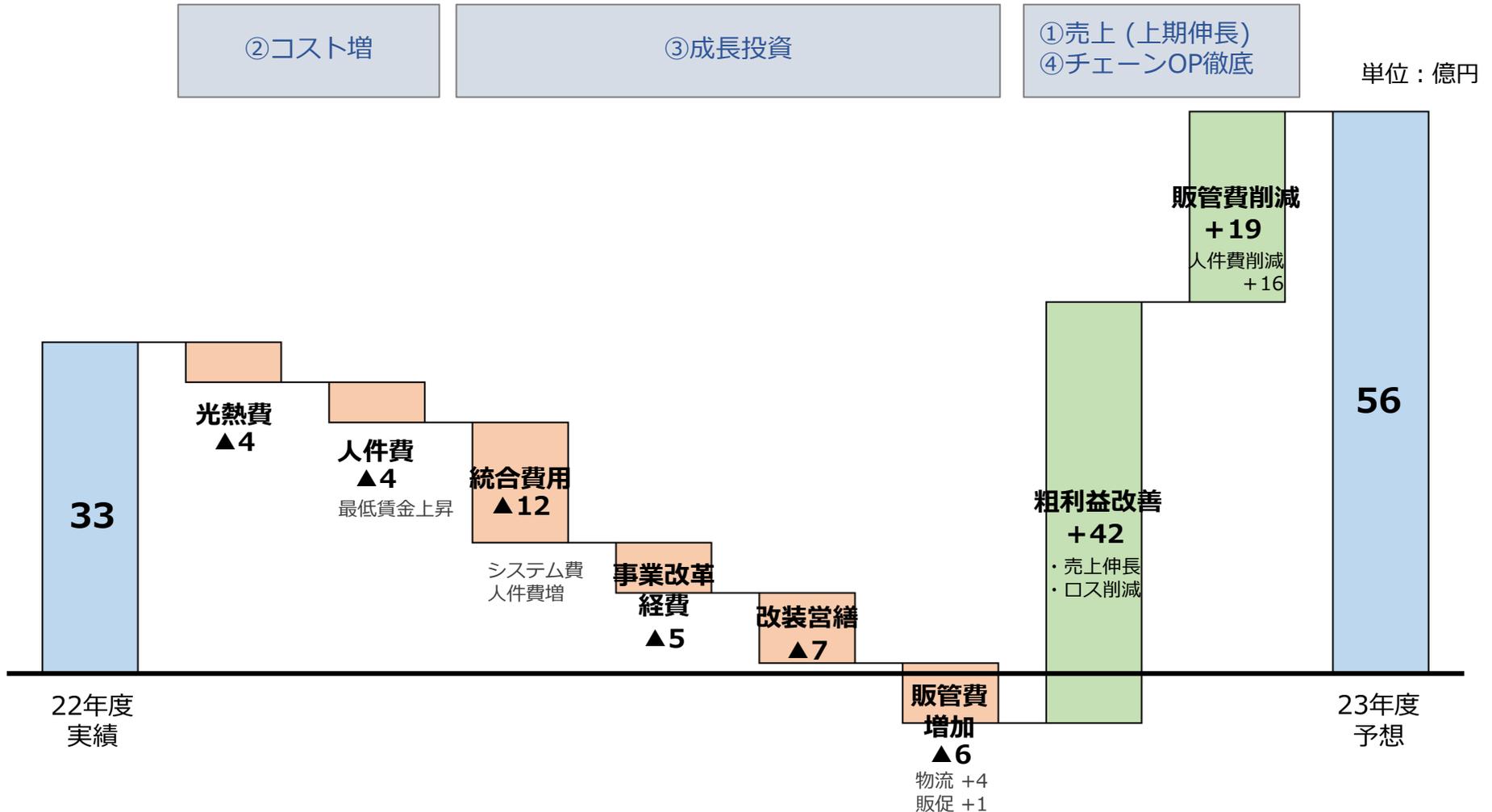
(単位：億円)	1・2Q		3・4Q		通期	
	金額	対前年	金額	対前年	金額	対前年
イズミヤ・ 阪急オアシス	総額売上高 (既存店)	1,335 104.2% 105.7%	1,315 100.5% 101.7%	2,650 102.3% 103.7%		
	営業利益	34 +25	22 ▲2	56 +23		
関西 スーパー	総額売上高 (既存店)	651 101.8% 103.0%	659 100.4% 101.4%	1,310 101.1% 102.2%		
	営業利益	16 +5	17 ▲1	33 +4		

注.

- 個別業績は収益認識基準適用前 売上高はその他営業収入を含む
- 2023年4月1日のイズミヤ株式会社と株式会社阪急オアシスの合併に伴い、業績予想はイズミヤ・阪急オアシス株式会社の業績予想として開示
- 関西スーパーは関西スーパーマーケットとKSPの連結数値
- 各社前年実績に対する前年比、前年差を記載

## Ⅱ－３．イズミヤ・阪急オアシス23年度通期利益増減要因

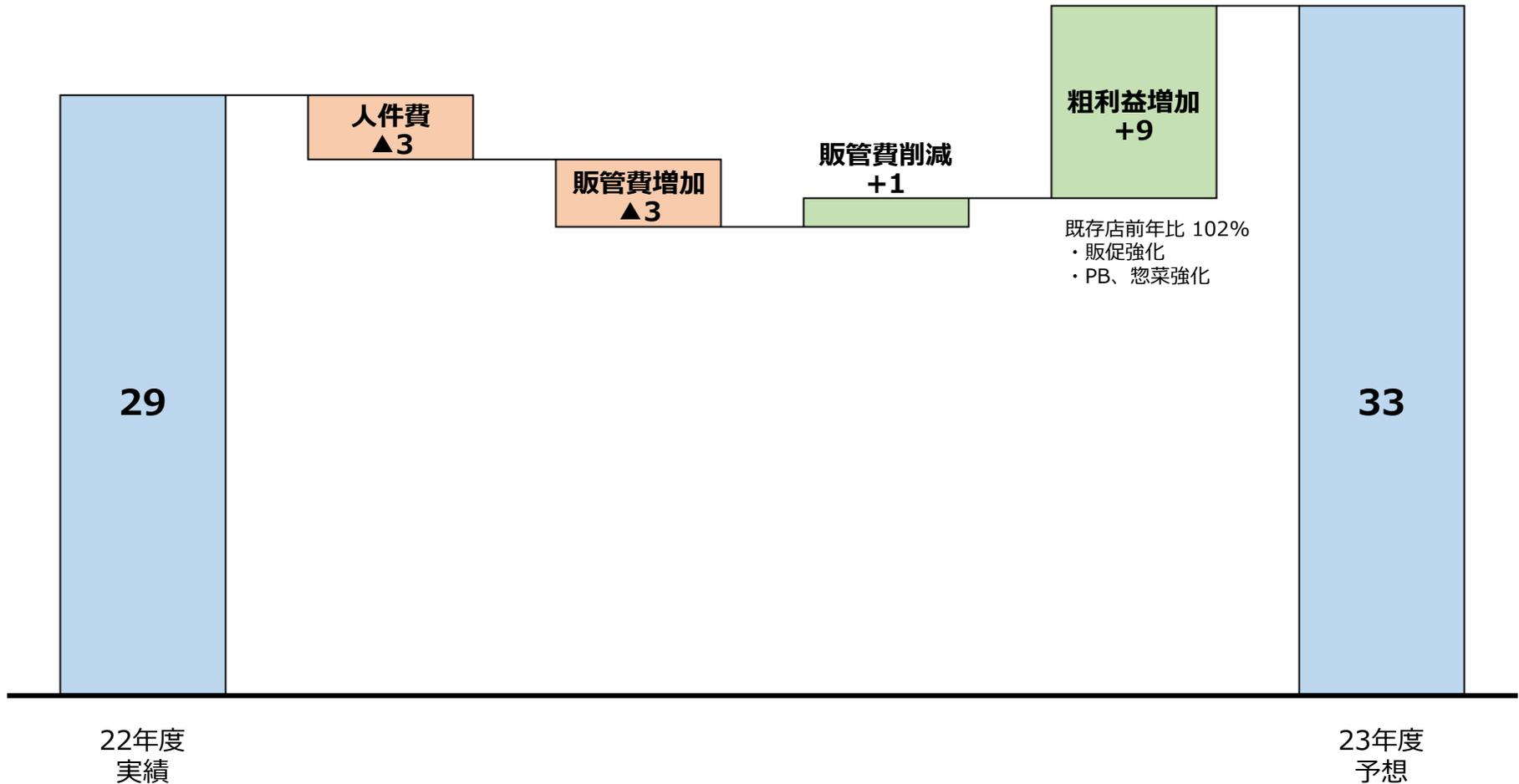
- ▶ 23年度もチェーンオペレーション徹底による販管費削減に加え、オペレーション適正化による上期の売上伸長やロス削減による粗利益増加を見込む
- ▶ 光熱費、統合費用等のコスト増を吸収して増益



## Ⅱ－３．関西スーパーマーケット23年度通期利益増減要因

- ▶ 人件費を中心としたコスト増加は見込むものの、営業施策とコストコントロールで利益を確保し、増益を見込む

単位：億円



## Ⅱ - 4 . 2024年3月期通期見通しー設備投資



関西フードマーケット

(単位：億円)	金額	主な項目
イズミヤ・ 阪急オアシス	42	店舗改装 12億円 修繕 29億円
関西スーパー	16	店舗改装 1億円 修繕 4億円、システム投資 10億円（電子棚札導入）
合計	57	



## 関西フードマーケット

本資料に記載された情報については、資料作成時点での当社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではなく、今後予告なしに変更されることがあります。

万が一、この情報に基づいて被ったいかなる損害に関しても、当社及び情報提供者は一切の責任を負いませんので、ご承知おき下さい。

また、本資料の著作権は全て当社に帰属し、著作権法に定める私的利用の範囲を超えて無断で、複製・転載等することを禁じます。